

高等学校学習評価Q&A

総合的な探究の時間



教
一
如
女
学

教えることは学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

本資料においては、以下の資料について、それぞれ略称を用いることとします。

「学習指導要領解説」：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総合的な探究の時間編 文部科学省

「改善等通知」：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成 31 年 3 月 29 日 初等中等教育局長通知

「参考資料」：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 総合的な探究の時間】文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「学習評価のハンドブック」：学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）令和元年 6 月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導資料」：鹿児島県総合教育センターが学校における課題や教科等の指導に関する今日的課題などについて研究した成果をまとめた資料

高等学校学習評価Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や高等学校の教科等別に評価規準の作成のポイントをまとめています。

高等学校学習評価Q & Aは、「指導と評価の一体化」について、先生方に分かりやすくガイドするために、以下のような工夫をしています。



1 大事なポイントをガイド

学習指導要領解説を踏まえ、「参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q & A

先生方が理解したり、自己点検したりできるように、各教科等の目標や単元（題材）の目標に照らした評価規準の作成の手順や評価における留意点、キーワードを示すなど、重要なポイントを焦点化しています。

評Q2 外国語科の評価の3観点とは何ですか。

学習指導要領における各教科等の目標と評価の観点の関連等についてQ & A形式でガイドしています。

「答え」に係る補足説明や「参考資料」などのページがコンパクトに示してあるので、「答え」の理由や根拠などが分かります。



3 簡単アプローチ

教科等ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。「指導と評価の一体化」を図り、生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に役立ててください。

※ 本資料では、ページ数のみが書かれている時には、「参考資料」の該当するページを意味しています。

目 次

評Q1	高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。	1
評Q2	総合的な探究の時間の評価の3観点とは、何ですか。	2
評Q3	総合的な探究の時間の評価の進め方はどのようにすればよいですか。	5
評Q4	評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。	10

総合的な探究の時間(共通)

評 Q1

高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。以下に具体的なポイントについて示します。

学習評価の改善・充実に向けたチェックポイント（□にチェックを入れてみましょう。）

- ☐ 学習評価は何のために行うものなのかを理解している。
- ☐ 「改善等通知」で示された学習評価の改善の基本的な方向性を理解している。
- ☐ 指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」に、観点別学習状況の記載欄が設けられたことを理解している。
- ☐ 観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理して示されたこと、また、それぞれの観点で評価する内容を理解している。
- ☐ 観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施することを理解している。
- ☐ 評定については、観点別学習状況の評価がその基本的な要素となることを理解している。
- ☐ 評価の総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得る準備ができている。
- ☐ 観点別学習状況の評価や評定を的確に行うために取り組むべきことを理解している。
- ☐ 指導と評価の一体化を実現することや観点別学習状況の評価の充実と質の向上を図ることの重要性について理解している。
- ☐ 生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を確実に育成するために、授業改善及び学習評価の改善・充実に向けて、主体的に実践と探究を進めていこうとしている。

学習評価の改善・充実に向けて、より理解を深めるために、以下の「指導資料」で御確認ください。

「指導資料」 令和2年10月発行
学習評価 第1号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実に
向けて」

<https://bit.ly/3PzmJAV>

【学習評価第1号】



「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第2号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実に
向けてⅡ」

<https://bit.ly/3LI9kDn>

【学習評価第2号】



併せて以下の動画（30分）の解説、パワーポイント資料等も御活用ください。

鹿児島県総合教育センターWeb ページ
「教育資料」内の「学習評価」の
学習評価の基本的な考え方
高等学校 学習評価について

<https://bit.ly/3lvrBtf>



「指導と評価の一体化」のため
の学習評価に関する参考資料
第1編 総説

【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

<https://bit.ly/3ktMiFi>



総合的な探究の時間

評 Q2 総合的な探究の時間の評価の3観点とは、何ですか。

評 A2 評価の3観点とは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」です。この3観点は、指導と評価の一体化を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

ここでは、次の疑問などに答えます。

- ☐ 総合的な探究の時間の**知識・技能**や**思考・判断・表現**とは、どういうものだろうか。
- ☐ 「**内容のまとまり**ごとに評価」するための総合的な探究の時間の**内容のまとまり**とはどのようなものだろうか。



1 評価の観点及びその趣旨

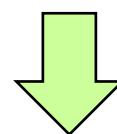
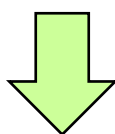
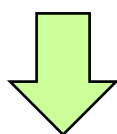
○ 「評価の観点及びその趣旨」

「参考資料」の第2編3には、学習指導要領の総合的な探究の時間の目標とそれを踏まえた「**評価の観点及びその趣旨**」が示されています（p.34）。

目標の（1）～（3）と、それぞれ評価の観点及びその趣旨が合うようになっています。

総合的な探究の時間の目標		
（1）	（2）	（3）
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

（高等学校指導要領 p. 476）



総合的な探究の時間の記録 評価の観点及びその趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

（改善等通知 別紙5 p. 18）

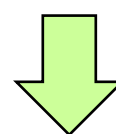
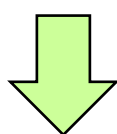
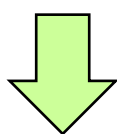
- 「**評価の観点及びその趣旨**」の作成（シラバス作成や評価に向けて）
各学校では、教科の「評価の観点及びその趣旨」と学校で定めた目標そして生徒の実態等に応じて、**総合的な探究の時間の「評価の観点及びその趣旨」を作成します。**

各学校で定めた目標の（１）～（３）と、それぞれ評価の観点に合うようになっています。

各学校において定めた総合的な探究の時間の目標（A 高等学校の例）		
（１）	（２）	（３）
地域や社会の人，もの，ことに関わる探究の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに，地域や社会の特徴やよさに気づき，それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く。	地域や社会の人，もの，ことと自分自身との関わりから問いを見いだし，その解決に向けて仮説を立てたり，調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに，論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。	地域や社会の人，もの，ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，持続可能な社会を実現するために行動し，社会に貢献しようとする態度を育てる。

※各学校においては，以下に留意して，各学校における総合的な探究の時間の目標を定める。

- ・「第１の目標」を踏まえる。〔第２の１〕
- ・各学校における教育目標を踏まえ，育成を目指す資質・能力を示す。〔第２の３（１）〕
- ・他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視する。〔第２の３（２）〕
- ・地域や社会との関わりを重視する。〔第２の３（３）〕



各学校において定めた総合的な探究の時間の評価の観点及びその趣旨（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域や社会の人，もの，ことに関わる探究の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けているとともに，地域や社会の特徴やよさに気づき，それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付いている。	地域や社会の人，もの，ことと自分自身との関わりから問いを見いだし，その解決に向けて仮説を立てたり，調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けているとともに，論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。	地域や社会の人，もの，ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら，持続可能な社会を実現するために行動し，社会に貢献しようとしている。

2 内容のまとめ

１で示した評価の３観点は，「内容のまとめ」ごとに評価します。総合的な探究の時間における「内容のまとめ」とは，全体計画に示した「目標を実現するにふさわしい探究課題」のうち，一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力と考えることができます（第２編 p.36 参照）。

ここでいう探究課題とは，指導計画の作成段階において各学校が内容として定めるものであり，具体的な資質・能力とは，探究課題の解決を通して育成を目指すものになります。

「内容のまとまり」を踏まえて、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。作成する際の【観点ごとのポイント】は以下のとおりです（「参考資料」第2編 p.37 参照）。

- 「知識・技能」のポイント
「内容のまとまり」における記載事項の文末を、例えば「理解する」から「理解している」などとする
ことにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能である。
- 「思考・判断・表現」のポイント
「内容のまとまり」における記載事項の文末を、例えば「できる」から「している」などとする
ことにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能である。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
「内容のまとまり」における記載事項の文末を、例えば「しようとする」から「しようとしている」など
とすることにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能である。

「内容のまとまりごとの評価規準」の作成例（A高等学校第2学年の例）

（「参考資料」第2編 pp.37-38 参照）

内容のまとまりごとの評価規準			
探究 課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題	- 自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には国境を超えた多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や国内外の組織があることを理解<u>している</u>。 - 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで、正確かつ安定的に実施<u>している</u>。 - 持続可能な環境の実現に関する理解は、グローバルな視点で自然環境とそこに関わる多様な人々や国内外の組織との関係を探究してきたことの成果であることに気付<u>いている</u>。	- 自然環境への関わりを通して課題をつくり、その解決に向けて仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案<u>している</u>。 - 課題の解決に必要な情報を、目的に応じた手段を選択して収集し、類別して蓄積<u>している</u>。 - 環境問題の事実や関係を整理し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして分析<u>している</u>。 - 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現し、学習活動を振り返って、学習や生活に生か<u>している</u>。	- 探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとして<u>いる</u>。 - 自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとして<u>いる</u>。 - 自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、持続可能な環境づくりに貢献しようとして<u>いる</u>。

（「参考資料」より 下線、太字は筆者による）

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
第2編 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の手順
【国立教育政策研究所教育課程センター】
<https://bit.ly/3LIe50s>



総合的な探究の時間

評 Q3 総合的な探究の時間の評価の進め方は、どのようにすればよいですか。

評 A3 総合的な探究の時間における評価の進め方は、「参考資料」第3編第1章1 (p.41) に次のように示されています。

- 1 単元の目標を作成する。
- 2 単元の評価規準を作成する。
- 3 「指導と評価の計画」を作成する。
- 4 授業を行う。
- 5 総括する。



【第3編第1章～】

<https://bit.ly/39wSM44>

ここはよく理解する必要があるので、ぜひ「参考資料」の冊子又は二次元コードからの「参考資料」のデータをお読みください。

ここでは、次に当てはまる先生方の疑問や要望などに答えます。

- ☐ 単元の評価規準の設定から評価の総括までの流れなど、「参考資料」の事例を参考にしたいが、何がどこに書いてあるか分からない。
- ☐ 評価の場面は、授業の観察、ワークシート、プレゼンテーション等があるが、それぞれの場面での3観点を評価する方法など、自分ではまだしっかりと理解していない。
- ☐ 「指導と評価の計画」を学年で共通理解したり、学習指導案を作成したりするために、「参考資料」の事例を参考にしたい。



1 単元の評価規準の作成

「参考資料」第3編第1章2 (pp.42-47) は「単元の評価規準の作成のポイント」です。単元ごとの目標及び評価規準の設定方法が書かれています。

(1) 単元の検討

- ・ 総合的な探究の時間における「内容のまとまり」は、目標を実現するにふさわしい探究課題と、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の二つによって構成されます。
- ・ 目標の実現に向けて生徒が「何について学ぶか」を表したものが探究課題であり、「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたものが具体的な資質・能力です。
- ・ この「内容のまとまり」を踏まえて、教師が意図やねらいをもって作成するのが単元の計画です。
- ・ 単元は、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとまりとして構成されます。

(2) 単元の目標の作成

「内容のまとまり」を基に単元全体を見通して、総括的に目標を示すとともに、以下の四つの要素を構造的に配列し、単元の目標を作成します。なお、イ～エは、アとの関わりにおいて作成します。

ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動

イ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」

ウ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」

エ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

〔単元の目標〕の例

自分が暮らす〇〇市の20年後の予想される姿を予測する活動を通して、この先の自然環境は人々の生活の在り方と深く関わっていることを理解し、自然環境と人間生活がともに豊かになるための行動の在り方について考えるとともに、持続可能な環境づくりに貢献しようとすることができるようにする。

(3) 単元の評価規準の作成（A高等学校第2学年の例）

「内容のまとめりごとの評価規準」を基に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成します。

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
持続可能な〇〇市の未来を創ろう	① 地球規模の環境は、環境問題の解決を国内外の組織が一体となり国や民族、宗教等を超えて進められてきた結果であること、自分自身を含めて全ての人が関わって解決していくことが重要であることを理解している。 ② 持続可能な環境に関する国際的な調査結果を、目的に応じた適切さで正確に収集している。 ③ 持続可能な〇〇市の未来の環境づくりに関する理解は、自らの課題意識のなかで探究してきたことの成果であることに気付いている。	① 〇〇市の自然環境の歴史の変遷に関する調査活動を通して、現在の環境における問題を明らかにし、未来のよりよい環境に向けて、仮説をもとに見通しをもって計画している。 ② 〇〇市の環境に関する意識を捉えるために必要な情報を、目的に応じて効果的な手段を選択しながら収集している。 ③ 収集した情報を自然と社会の視点で比較・分類するとともに、「実効性のある取組」、「持続可能な取組」などの根拠に基づき、行動する方向を明らかにしている。 ④ 持続可能な20年後の環境の実現に向けた自己の取組について、目的や対象に応じて提言内容を効果的に表現している。	① 期待する未来の環境づくりに向けた自己の取組の特徴を理解するとともに、自らの意思で探究に取り組もうとしている。 ② 市民の納得や協力を得るための実効性のある取組に向け、自他の考えを生かしながら、協働して取り組もうとしている。 ③ 持続可能な自然環境を次世代につなぐために、自らが当事者であることの自覚をもって、グローバルな視点に立って環境づくりに貢献し続けようとしている。

(4) 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の評価規準」の作成のポイント

（以下の①～④は、上記単元の評価規準の観点別に示された①～④と合致します。）

(1) 知識・技能

「知識・技能」の観点については、「①概念的な知識の獲得」、「②自在に活用することが可能な技能の獲得」、「③探究の意義や価値の理解」の三つに関する評価規準を作成することが考えられる。

① 知識については、事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念として形成されることが期待されている。

② 技能については、手順に関する知識を関連付けて構造化し、特定の場面や状況だけでなく日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付けることが期待されている。

- ③ 総合的な探究の時間においては、①②とともに、探究の意義や価値の理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながること、探究を自律的に進めるようになることなどを、探究してきたことと結び付けて理解することが期待されている。

(2) 思考・判断・表現

「思考・判断・表現」の観点については、「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

- ① 「課題の設定」については、実社会や実生活に広がっている複雑な問題に向き合って、自らの力で解決の方向を明らかにし、見通しをもって計画的に取り組むことができるようになることが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば、以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。
- ・ 仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する。

- ② 「情報の収集」については、情報収集の手段を意図的・計画的に用いたり、解決の過程や結果を見通したりして、多様で効率的な情報収集が行われるようになることが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば、以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。
- ・ 必要な情報を収集し、類別して蓄積する。

- ③ 「整理・分析」については、収集した情報を取捨選択すること、情報の傾向を見付けること、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見いだすことなどが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば、以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ。
- ・ 視点を定めて多様な情報を分析する。
- ・ 課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える。

- ④ 「まとめ・表現」については、整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること、振り返ることで対象や自分自身に対する理解が深まることなどが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば、以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 相手や目的、意図に応じて論理的に表現する。
- ・ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。

※ ①～④の探究のプロセスについての詳細は、鹿児島県総合教育センター作成「高等学校学習指導要領Q&A総合的な学習の時間」p.3に図「探究における生徒の学習の姿」として記載している。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視することとしている。これらは、自他を尊重する「①自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

評価規準の設定に当たっては、例えば以下のような視点で設定することが考えられる。

- ① 「自己理解・他者理解」については、探究を通して、自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとしたり、異なる多様な意見を受け入れ尊重しようとしたりする視点
- ② 「主体性・協働性」については、自分の意思で真摯に課題に向き合ったり、自他のよさを認め特徴を生かしながら協働したりして、解決に向けた探究に取り組もうとする視点

- ③ 「将来展望・社会参画」については、探究を通して自己の在り方生き方を考えながら将来社会の理想を実現しようとしたり、社会の形成者としての自覚をもって社会に参画・貢献しようとしたりする視点

(4) その他

「単元の評価規準」を作成するに当たっては、実際の学習活動や学習場面をイメージし、資質・能力を発揮する生徒の姿を想定することが大切である。その際、実際に行う学習活動や扱う学習対象と、発揮される資質・能力とを具体的に描くが必要になる。

2 事例について

「参考資料」の事例には、全教科を通じて次のような特徴があります。

- 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫を示している。

○ 総合的な探究の時間の事例の特徴

総合的な探究の時間では、事例は全部で四つ示されています。「参考資料」第3編第2章2(p.49)にまとめられていますので、ご参照ください。以下は、総合的な探究の時間の事例の特徴です。

事例	キーワード	単元名	備考
1	指導と評価の計画、三つの観点の評価、評価結果の総括、指導計画の評価・改善	町民の健康寿命を延ばすために～地域住民と共に取り組めること～ (第3学年「福祉」「健康」全35時間)	指導と評価の計画の立案から評価の総括までを紹介している。一連の評価活動を取り上げることで、総合的な探究の時間における指導と評価の概要が把握できる。
2	指導と評価の計画、「知識・技能」の評価、生徒の学習の姿と見取り	自己を探る～自分が社会とつながるために～ (第3学年「地域」「キャリア」全35時間)	研究テーマ設定シートと単元振り返りポートフォリオによる「知識・技能」の評価例が示されている。
3	指導と評価の計画、「思考・判断・表現」の評価、生徒の学習の姿と見取り	地域のプロフェッショナルと探究しよう (第1学年「環境」「文化の創造」等全35時間)	観察・実験の改善を記した探究リテラシー研究記録や論文、ポスターセッションによる「思考・判断・表現」の評価例が示されている。
4	指導と評価の計画、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、生徒の学習の姿と見取り	つながつなげるプロジェクト～パンフェスの開催～ (第3学年「地域経済」全35時間)	企画書やリフレクションシートによる「主体的に学習に取り組む態度」の評価例が示されている。



3 総括の方法

評価結果の総括と指導要録への記載については、以下のように示されています。(pp. 57-58)

「改善等通知」に、「総合的な探究の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述すること」とされている。記述に当たっては、単なる活動のみにとどまることがないように留意する必要がある。

各学校において定められた評価の観点は、生徒の成長や学習状況を分析的に評価するためのものである。また、各学校においては、設定した評価規準と実際の学習状況とを照らし合わせて評価していくことが考えられる。その際、生徒の学習活動を記録したり、生徒の作品などを保存したりして、評価資料を集積しておくことが重要である。

評価結果の総括に当たっては、評価場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な探究の時間の記録」に記述することが考えられる。その際、必要に応じて指導を行った学年（年度）を付記するなど、各学校の実態に応じて工夫して記載することが考えられる。なお、評価規準にかかわらず教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述することも大切なことである。

4 「指導と評価の一体化」の観点を考慮した指導計画について

「指導と評価の一体化」のためには、「指導と評価の計画」の作成が大切です。それが学習指導案作成にもつながります。観点を考慮し、その際には、次の点に留意し、作成してください。

- (1) 単元（題材）の目標と評価規準を設定して、単元（題材）の指導計画や本時の指導計画を作成する。

「指導と評価の一体化」の観点から、評価規準で示したことについて、生徒が学ぶ機会を設けることがとても大事です。目標について、単元のどの場面で生徒が学ぶのかを明らかにします。

「指導と評価の計画」は、「参考資料」にある事例の形式（pp. 51-52 など）を参照しましょう。

- (2) 観点別学習状況の評価につながる「記録に残す評価」は、全員を対象に行う。

評価には、生徒の目標の達成状況を単元途中で確認する「指導に生かす評価」と主に単元の後半で行う観点別学習状況の評価のための「記録に残す評価」があります。単元目標は単元が終わるまでに達成できればよいため、「記録に残す評価」については、単元の後半に主な評価場面を設けることが一般的です。また、「記録に残す評価」は、全員に対して一斉に行うのが原則です。全員に行うことができない場合には、「記録に残す評価」を行うことは通常はありません。この「記録に残す評価」をいつ、どの場面で行うか、「指導と評価の計画」の中に明記しましょう。

- (3) 具体的な目標の達成状況の例を示す。

単元の最初に目標を示す際には、生徒の達成状況の例を具体的に示したいものです。例えば、生徒の作品例や実際に活動を行なっている様子（できれば評価Aの生徒のものと評価Bの生徒のもの）を示すと、生徒は目標とする達成状況までの過程のイメージを得やすくなります。また、教師にとっては、個々の生徒の学習の達成状況を把握しやすくなるので、生徒一人一人への個別の指導につなげることができます。これは、「学習評価のハンドブック」に示されている「教師の指導改善につながるものにしていく」ことにつながります。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第3編第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/3ycLtsJ>



総合的な探究の時間(共通)

評 Q4

評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評 A4

学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、「指導と評価の計画」を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

高等学校及び特別支援学校高等部においては、令和4年度以降に入学する生徒から、観点別学習状況の評価を指導要録に記載することになるなど、各学校においては学習評価の改善・充実が喫緊の課題となっています。現在、当センターにも以下のような学習評価に関する様々な質問が寄せられているところです。

- 自分の担当する教科の3観点がよく分からず不安です。まず何から始めればよいですか。
- 定期考査等のペーパーテストでは、「知識・技能」，「思考・判断・表現」のどちらを測る問題か，明示して出題すべきでしょうか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のみを取り出して評価できますか。
- これまで「平常点」として評価していたものをそのまま「主体的に学習に取り組む態度」として評価してよいですか。
- 課題の提出状況や小テストの結果は「主体的に学習に取り組む態度」で評価しないのですか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「知識・技能」や「思考・判断・表現」の評価と大きな差があることはありますか。
- これまでと同様に「評点」を用いて評定を算出してもよいですか。
- 観点別学習状況の評価「A B B」などを学年末に「評定」へ総括する際に「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を 1:1:1 ではなく 1:2:1 とするなど3観点で軽重を付けてもよいですか。
- 特別活動，総合的な探究の時間の評価はどのようにすればよいですか。
- 指導要録だけでなく通知表にも観点別学習状況を記載した方がよいですか。
- 観点別学習状況の評価を基にした評定について，生徒や保護者に配布する文書例はありますか。

当センターでは、これらの質問に対する回答を「指導資料」としてまとめています。次の「指導資料」を参照し、学習評価に関して、より理解を深めてください。

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第3号
「高等学校における学習評価の改善・充実に向けてⅢ
—よくある質問から—」
<https://bit.ly/3wF7UUZ>



【学習評価第3号】